

第 34 節 スポーツ整形外科研修〔選択科向け研修〕

スポーツ整形外科は整形外科の一分野であり、整形外科の研修ののちに、専門性を高めるための研修を行う。

一般目標

- ① 救急医療:運動器の外傷の初期治療を行える。
- ② スポーツ外傷・障害関連疾患:基本的な診断と治療方針を立てられる。
- ③ 基本手技:運動器疾患(とくに肩、膝)の診察において基本的な手技を習得する。
- ④ 医療記録:運動器についての医療記録を記載できる。
- ⑤ スポーツ現場における実地研修

具体的目標

1. 救急医療

- ① 骨折の診断と徒手整復、ギプス固定などの初期治療を経験する。
- ② 骨折の観血的整復内固定術を上級医の指導で術者または助手として行う。
- ③ 捻挫・靭帯損傷の診断と副子固定などの基本的な初期治療を行える。
- ④ 四肢の神経・血管・筋腱の損傷を診断し、上級医へ適切な報告ができる。

2. スポーツ外傷・障害疾患

- ① スポーツ外傷・障害のX線・CT・MRI 画像を理解できる。
- ② 理学療法の処方を理解できる。

3. 基本手技

- ① 主な身体計測(ROM、MMT、四肢長、四肢周径)ができる。
- ② 適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる。
- ③ 主に肩・膝関節の不安定性などの評価ができる。

4. 医療記録

- ① 病歴・身体所見が記載できる。
- ② 症状の経過を記載できる。

5. スポーツ現場における実地研修

- ① 必要に応じて、スポーツの現場に上級医とともに帯同。負傷した選手の診療、チェックに立ち会う。

実臨床研修

- ① 毎日の回診あるいは申し送りにおいて、入院担当患者について問題点を提示し、指導医、上級医と検討を行う。
- ② 入院担当患者の病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。
- ③ 必要に応じて整形外科の救急患者、予約外患者の診察にも参加し、自ら病歴聴取、診察を行い、カルテに記載し、記載内容、治療方針などについて指導医、上級医と討論、確認を受ける。
- ④ 症例カンファレンスにおいては、症例を提示し、指導医、上級医との討論を行う。
- ⑤ 学会や研究会での発表を行う。

研修評価

- ① 上級医、指導医との討論において症例の理解度の評価
- ② 入院患者退院時のサマリーでの理解度の評価
- ③ 病院の共通の評価用紙での総合的評価

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	カンファレンス 手術	手術	カンファレンス 外来 手術	手術
午後	外来 手術	手術	手術 カンファレンス	外来 手術	外来 手術